

# 甲 寿 園 だ よ り

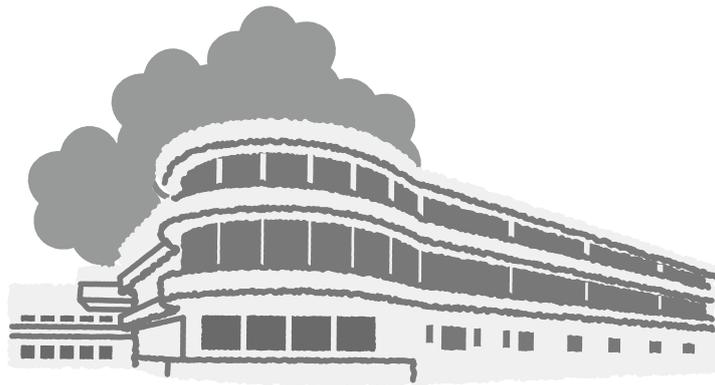
平成30年度年報

平成30年度事業報告  
令和元年度事業計画

TO LIVE IS BEAUTIFUL!!

が、  
として  
とともに  
人 豊かに  
生きる





# 平成30年度年報

平成30年度事業報告  
令和元年度事業計画



## 目次

平成 30 年度年報発刊にあたって 園長 中野 由理	3
法人理念	4
平成 30 年度 事業報告 (法人本部)	6
平成 30 年度 事業報告 (甲寿園)	13
決算報告	22
予算概要	23
利用者の状況	24
甲寿園歳時記	26
各フロアのまとめ 南館 2 階	28
南館 3 階	28
北館 2 階	29
北館 3 階	29
ケアプラン室	30
栄養室	31
看護課	32
リハビリテーション室より	
平成 30 年度リハビリテーション室まとめ	33
在宅事業関係の事業報告 居宅介護支援事業	35
短期入所生活介護事業ショートステイ	35
通所介護事業デイサービス	36
甲寿園地域貢献事業	36
・健康カルチャー教室ハイカラ倶楽部	36
・第 6 回春フェスタ	37
委員会のまとめ 感染対策委員会	38
食事・褥瘡予防委員会	39
身体拘束廃止委員会	40
防災委員会	41
PC 委員会	42
リスクマネジメント委員会	42
排泄委員会	43
研修委員会	43
口腔ケア委員会	44
サービス向上委員会	45
ボランティア・クラブ活動の状況	46
職員の研修状況	49
実習生の受け入れ状況	50
苦情相談受付及び解決状況の結果報告	51
永年勤続・ボランティア活動表彰	52
寄付一覧	53
職員の状況	54
写真で振り返る甲寿園の 1 年	55
令和元年 事業計画 (法人本部)	60
令和元年 事業計画 (甲寿園)	61
防火管理体制と災害発生時の業務分担	66
甲寿園組織図	67
令和元年 年間行事予定	68
令和元年 カレンダー 2019 年	70
甲寿園の沿革	72
実践研究発表	76

## 「人生100年時代において」



甲寿園園長  
中野 由理

平成30年度年報を発刊するにあたり、ご挨拶を申し上げます。

「人生100年時代において、介護は誰もが直面しえる現実かつ喫緊の課題である」と誰もが思いつつ、自身が直面しないとなかなか深く考えられない高齢者福祉。その高齢者福祉に携わる者として、平成30年度は、甲寿園の役割や存在の意味を考えた1年でした。

平成7年に兵庫県南部を襲った阪神淡路大震災から23年余りが過ぎ、この間平成23年には東日本大震災、平成28年には熊本地震、その他にも大小の地震に日本は見舞われましたが、幸い阪神間には大きな地震の発生はありませんでした。

そのような矢先、6月の地震に始まり台風や大雨等想定外の気象が私たちを襲いました。園においても、6月の地震時停電によりボイラーやエレベーターが停止し移動及び昼食の配膳等が難しくなりました。日頃エレベーターを使用し当たり前に行っていた業務が出来ず、出勤した全職員の力で乗り切りました。その後の大雨・台風・それに伴う停電と、施設の機能が止まるほどではありませんでしたが、自然災害に対して改めてどれだけの準備をすればよいのかを考える機会となりました。

高齢者の生活施設である甲寿園は、ご利用者の生活を守る場であるとともに地域高齢者の安心の拠点でもあります。30年10月に西宮市と共に行った「にしのみや苑・甲寿園合同福祉避難所開設訓練」のような機会を重ねながら、災害に備えていきたいと思えます。

設備関係において30年度、南館2・3階の特殊浴槽を更新しました。特養4フロアとデイサービスに入浴設備としてそれぞれ一般浴槽と特殊浴槽を設置している甲寿園にとって、更新の時期の決定はとても大切です。建物及び設備関係の更新や修繕工事など、甲寿園を安心して皆様につかっていただけるよう適切に進めなくてはなりません。

社会福祉法人甲山福祉センターでは30年度「新5ヵ年計画」を作成いたしました。

平成24年に作成した中長期計画において高齢者支援の分野は①これからの高齢者施設 ②在宅サービスのビジョンと展開 ③これからの経営 の3つを中心とした提言がなされ、それをもとに甲寿園でも事業をすすめてきました。30年度作成した「新5ヵ年計画」は「中長期計画」に対する取り組みの評価と高齢者福祉を取り巻く社会情勢の変化に対応した後半5年の計画です。法人の拠点の一つである甲寿園も、「新5ヵ年計画」に沿っての運営となります。計画にもあるように、施設サービス及び在宅部門の機能強化をはじめ、高齢者福祉に精通した人材確保に力を入れる事、加えて地域に存在感のある施設となる為地域貢献に取り組む事を継続していきたいと思っております。

特に社会全体で取り組まなくてはいけない問題でもある「高齢者福祉に精通した人材確保に力を入れる事」に関しては人材確保が厳しい中、より良いサービスの為に踏ん張ってくれている甲寿園の全職員と共に頑張っていきたいと思っております。

今後も皆様と共に甲寿園が歩んでいきますようご協力ご支援よろしくお願いたします。



# 理 念

Philosophy

人が、  
として  
とともに **豊かに生きる**

We live and enhance life together as human beings

## 基本方針

- 1 わたくし達は人との出会いを大切にします
- 2 わたくし達は思いやりと謙虚な気持ちを大切にします
- 3 わたくし達は個人を尊重し心優しい援助に努めます
- 4 わたくし達は社会福祉に貢献できるよう資質の向上に努めます
- 5 わたくし達は地域との信頼を深め開かれた施設運営に努めます

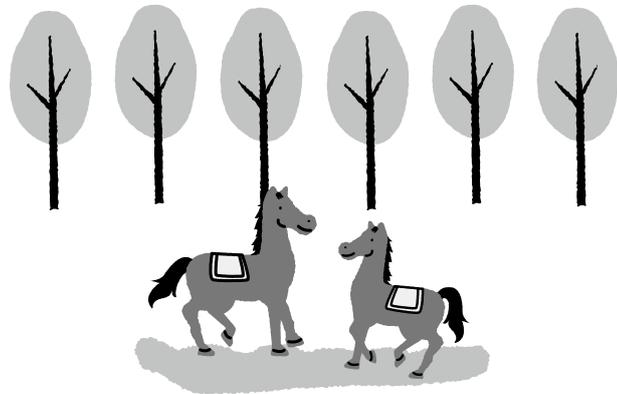
## Policy

- 1 We treasure our encounters with each other.
- 2 We cherish sympathy, charity and humility.
- 3 We respect individuals and support them tenderly.
- 4 We develop qualities to contribute to the welfare of society.
- 5 We deepen mutual trust with local communities.

平成30年度

# 事業報告

---





# 平成30年度 事業報告

## 法人本部

### 1. はじめに

平成29年4月1日より施行された改正社会福祉法により、新しい理事会・評議員会による体制が確立し2年目に入り、それに則した運営をしました。

会計監査法人によって昨年度より監査を行ってもらい、改善を図ってより正確な会計実務の運用を確立しつつあります。今年度もそれを引き続き実行しました。

福祉人材の確保・育成についてはますます人材不足が顕著となり、獲得が困難になる中、求人サイトや様々なメディアを活用しつつ従来3回であった採用試験を5回（4月、6月、8月、10月、2月）に増やし、早期から実施しました。最終的には、予定数になんとか達することができました。

また、コンサルタント会社の協力を得て、各施設より委員を選出してプロジェクトチームを結成し、賃金体系の見直し、人事評価制度の導入を目指して、月に2度のペースで会議を持ち検討を行い、新人事制度を確立しました。令和元年度から運用を開始します。

平成24年に策定した中長期計画の前半5カ年の検証を行い、新5カ年計画を作成しました。地震や台風や豪雨など天災が多く、職員の確保や安全の確認、災害後の建物の補修などに対応を迫られることが多くありました。今後の防災対策に取り入れるべき課題も見えてきており、今後は危機管理・防災対策委員会を中心に対応していきます。

### 2. 事業報告

#### 1) 各事業の安定的経営と事業拡大

(ア) 収入に関しては、各事業所が精査して加算をとり、増収を図るとともに利用率の拡大を目指します。

⇒各施設が加算をとって増収、利用率の拡大に励みました。

(イ) 支出に関しては、各事業所が連携してまとめるところはまとめ、経費節減に努めます。

⇒コピー用紙などは安価な価格を交渉して統一しました。次年度は、各施設で大量に消費する日用品などの連携した購入を検討します。

(ウ) 利用率、並びに収支に関しては、拠点施設の各事業について数値目標を設定し、それに対して各月の経営協議会で各施設長が把握し収支のバランスが保たれているかをチェックいたします。

⇒毎月の経営協議会で利用率、収支をチェックして、対策を講じ達成に向けて努力をしました。

(エ) 各事業所の経営分析を監査法人の意見を基に経理担当者が行います。

⇒経営分析の結果、収益も増えていますが、その分人件費も伸びています。

(オ) 新規事業計画については引き続き検討を行います。

⇒検討を行いましたが、新規事業は実施できませんでした。

平成30年度 決算<収入>

	全体	すなご	甲寿園	北山学園	にしのみや苑	芦原デイサービス	安井保育園	総合相談	夙川さくら	法人本部
収入	4,920,510,842	2,627,888,636	960,036,281	152,293,182	405,983,712	242,968,265	244,469,522	130,674,944	143,006,800	2,431,000
平成29年度	4,811,343,287	2,598,102,697	913,446,787	136,080,396	393,687,337	243,821,784	240,344,244	130,409,543	141,905,499	2,457,000
差	109,167,555	29,785,939	46,589,494	16,212,786	12,296,375	△ 853,519	4,125,278	265,401	1,101,301	△ 26,000
率	102.27%	101.15%	105.10%	111.91%	103.12%	99.65%	101.72%	100.20%	100.78%	98.94%

(全体の数字は法人本部を含めています)

平成 29 年度 決算<支出>

	全体	すなご	甲寿園	北山学園	にしのみや苑	芦原デイサービス	安井保育園	総合相談	夙川さくら	法人本部
人件費支出	3,588,467,231	1,961,274,947	634,756,624	114,066,344	262,303,587	187,294,371	162,996,080	108,438,704	101,585,437	54,049,788
事業費支出	618,666,766	295,591,944	148,715,689	19,366,583	65,365,260	31,556,169	19,358,675	4,731,220	13,063,002	20,918,224
事務費支出	440,451,235	179,760,709	81,459,579	17,179,946	44,667,249	27,538,076	32,089,377	12,533,058	15,191,763	25,058,824
合計	4,838,242,611	2,528,885,248	916,363,722	153,079,588	382,817,190	248,467,339	226,463,873	130,172,647	143,096,114	101,313,991
人件費比率	72.93%	74.63%	66.12%	74.90%	64.61%	77.10%	66.67%	82.98%	71.04%	-

## 2) 事務の効率化・事務局の役割の強化

事業計画推進のため事務局機能を強化し、次のことに重点を置き引き続き取り組みます。

(ア) 法人本部で人事を一元的に統括し、人材の補充を充足する部門の充実を進めます。

⇒本部で人事を統括はしていますが、採用担当の退職による人材の補充に関しては、難しい状況でした。

また、嘱託職員やパート職員などは各施設が中心に行っています。

次年度は兼任の採用担当を配置しました。

(イ) 法人事務局における財務部門の強化

西宮すなご医療福祉センター病棟改修工事に伴う積立金の取り崩しを行います。

今後の法人全体としての財務計画を作成するとともに、計画的な積立を行います。

⇒西宮すなご医療福祉センターの積立金の取り崩しは2回に分けて行いました。

法人全体の積立金に関しては、新5カ年計画において今後の計画を立てました。

(ウ) 法人規程集の整備・電子化を進めます。

⇒今年度は実施できませんでしたが、電子決裁システムと併せて検討しています。

(エ) 法人内における福利厚生制度の調整と統一を進めます。

⇒互助会、甲子園球場の年間シートに関して本部が調整して行っています。

また、生活習慣病予防健診の補助、腰痛予防のための施設使用の補助なども行っています。

(オ) 電子決裁システムについて、導入にむけた検討を行います。

⇒次年度以降の導入にむけて、検討しました。

## 3) 経営・運営会議の開催

(ア) 理事会、評議員会の開催

定例理事会は4回開催します。評議員会は3回開催します。

法人の安定した経営のため、事業計画・予算、事業報告・決算、大型修繕計画、新規事業の開始等について審議を行います。

⇒定例の理事会を4回（6月、9月、12月、3月）、臨時の理事会を2回（5月、2月）、持ち回り理事会を1回（9月）計7回行いました。

定例の評議員会を3回（6月、12月、3月）行いました。

(イ) 常勤役員会を定期的（週1回）に開催し、法人全体の事業運営についてタイムリーに協議します。

⇒常勤役員会は週1回開催し、計41回開催し、都度重要な事業運営について話し合いました。

(ウ) 経営協議会を月2回開催し、各事業所の経営並びに運営上の諸問題について協議します。

⇒経営協議会は月2回開催していますが、8月は台風のため1回中止としたため、計23回の開催を行いました。毎回各事業所の経営や運営上の問題について協議しました。

(エ) 専門部会（事務担当部会、栄養・給食担当部会、研修担当部会、広報活動部会、危機管理・防災対策部会、ボランティア支援部会、地域貢献活動支援部会）、事業種別連絡協議会、甲山地区施設連絡協議会を定期開催します。

甲山地区施設連絡協議会は甲山地区における施設の運営に関わる事項について協議し連携を図ります。

⇒会議の開催状況

事務担当部会	第1回 11月12日(月)	第2回 2月13日(水)
栄養・給食担当部会	第1回 4月18日(水) 第3回 12月4日(火)	第2回 8月17日(火) 第4回 3月6日(水)
研修担当部会	第1回 4月25日(水) 第3回 6月27日(水) 第5回 9月26日(水) 第7回 11月28日(水) 第9回 2月27日(水)	第2回 5月30日(水) 第4回 7月25日(水) 第6回 10月24日(水) 第8回 1月22日(水) 第10回 3月20日(水)
広報活動部会	第1回 5月16日(水) 第3回 8月29日(水) 第4回 10月11日(木)	第2回 7月4日(水) 9月13日(木)資料集約 第5回 1月17日(木)
危機管理・防災対策部会	第1回 5月16日(水) 第3回 8月20日(月) 第5回 12月17日(月)	第2回 7月18日(水) 第4回 10月22日(月)
ボランティア支援部会	第1回 5月23日(水) 第3回 2月6日(水)	第2回 8月29日(水)
地域貢献活動支援部会	第1回 7月11日(水) 第2回 9月12日(水) 第3回 11月14日(水) 第4回 1月16日(水) 第5回 3月13日(水)	

#### 4) 監事監査・内部監査

(ア) 中間監事監査を11月、決算監事監査を6月に行います。

会計監査法人によるチェックを行うとともに会計監査人による会計監査を実施します。

⇒平成29年度の決算監事監査を6月に行いました。平成30年度の中間監査を11月に行いました。

指摘事項としては人材確保の強化と採算の合わない事業の利用率をアップすることが指摘されました。

(イ) 適正な運営と相互牽制のため、各事業所の財務管理、サービス面の内部監査を実施します。

⇒今年度は実施できませんでした。

(ウ) 第三者評価を実施する事業はガイドライン等を参照して次年度に向けて準備を進めます。

⇒北山学園は次年度の実施に向けて、資料などの確認、見積もり等を行いました。

(エ) 合同苦情解決委員会を年1回(2月)開催します。

⇒2月に実施しました。18件の報告を行いました。

#### 5) 人事制度再構築、人材確保

(ア) 人事給与制度の再構築、人事評価制度の導入を検討し適正な給与水準を保ち、昇格等人事の基礎データの構築を目指します。

⇒コンサルタント会社主導のもとに、各施設からの委員でプロジェクトチームを作り、月に2回の会議を行い制度の設計を行いました。次年度から運用していきます。

(イ) 高齢者施設と障がい・児童施設との年間休日数を統合し、ワークライフバランスを尊重した労働条件の充実を目指します。

⇒平成30年度から、1日の労働時間を7時間45分、年間休日を114日に統一いたしました。

(ウ) 処遇改善加算をとり、職員給与の改善をはかります。

⇒平成30年度から、障がいと高齢施設は処遇改善加算Iをとり、1万2千円の手当てを2万2千円にしました。保育施設は、国が示す基準に従って、処遇改善加算手当を支給しました。

- (エ) 新規卒業者の人材の確保のために、求人サイトの有効活用や大学、専門学校等への訪問を行います。  
⇒求人サイトは有効に活用しています。大学、専門学校への訪問はピンポイントで行いました。  
高等学校への訪問も行いました。
- (オ) 中途採用においても、正規職員採用、非正規職員採用との違いを明確にして、随時に採用試験を行い、人材難の状況に対して柔軟に対応できるようにします。また職員紹介制度、ハローワーク等への求人、有料紹介会社の活用により、職員確保に努めます。  
⇒正規職員の中途採用は随時行っており、23名の職員を採用しました。職員紹介の制度も3名の紹介があり、採用しました。その他、看護師や介護福祉士は紹介会社からの紹介を主として施設基準に必要な人数を充足させました。
- (カ) 将来に福祉の仕事への就職を志して学ぶ介護専門学校生の支援として奨学金制度を設けます。  
⇒制度を設けて専門学校での説明会に参加しましたが、制度活用には至りませんでした。
- (キ) 大学や県社協、人材会社等が主催する就職フェアに積極的に参加します。

就職フェア名	フェア参加者総数	法人ブース来訪者数
県社協主催 第1回福祉の就職フェア in HYOGO (7/29 神戸開催)	203 名	9 名
県社協主催 福祉の就職説明会 in HYOGO (11/24 尼崎開催)	40 名	5 名
県社協主催 第2回福祉の就職フェア in HYOGO (3/14 神戸開催)	347 名	13 名

- (ク) 人材育成・確保に関して見学実習等の受入等、日本福祉大学と連携をしていきます。  
⇒今年度は、実習等はありませんでした。
- (ケ) 来るべき人材不足に備えるべく、外国人就労者の受入れの可能性について、検討をします。  
⇒資料を集め検討しましたが、本格的な実施には至りませんでした。次年度以降も検討を続けます。

## 6) 人材育成、職員研修

- (ア) キャリアパス制度の作成検討など研修体制の充実を図り、人材の育成を進めます。  
研修システムの体系化等に取り組みます。  
⇒明確なシステム作成までには至っていませんが、新人事評価制度とリンクしたシステムの構築を新5カ年計画に沿って次年度以降に検討します。
- (イ) 関係機関が主催する役員対象の研修会への参加を進めるとともに、幹部の養成のための研修会への参加を進めます。  
社会福祉施設長資格認定講習課程の受講を計画的に進めます。  
⇒社会福祉施設長資格認定講習課程は3名が受講し、修了しました。
- (ウ) 第18回法人職員合同実践研究発表会を開催し、職員の研究・研修の充実を図り交流を進めます。  
⇒11月18日(日)に開催しました。
- (エ) 職員研修・勉強会を開催し、業務上必要な各種の資格取得を奨励します。  
⇒研修部会を中心に、法人研修、各施設の研修を行いました。喀痰吸引の研修などにも、参加させました。
- (オ) 日本福祉大学、武庫川女子大学大学院等と連携して、福祉人材養成を行います。  
⇒日本福祉大学の実習生は、今年はいませんでした。武庫川女子大学の栄養士の実習の受け入れを行いました。
- (カ) 大阪市立大学に障がい医学・再生医学寄附講座を設置し、重症心身障がい児者に関わる医師・医療職人材の育成に寄与します。  
⇒障がい医学・再生医学寄附講座は4月に開設しました。  
「重症児の在宅支援を担う医師等養成インテンシブコース」の研修も行いました。

## 7) 防犯・防災対策

- (ア) 災害発生時に対応できるように各施設の特長に応じた災害対策マニュアルの整備及び見直しを進めます。  
⇒今年度は災害が多発して、マニュアルで足りない部分を補って見直しを進めました。
- (イ) 災害発生時には各施設の利用者のみならず地域住民の支援に協力できるように、備蓄物品の整備等、体制整備を進めます。  
甲山地区においては3施設合同での防災訓練を実施します。  
⇒備蓄物品等は各施設、必要な整備体制を整えました。甲寿園とにしのみや苑、芦原デイサービスセンターでは福祉避難所としての機能も担っています。  
3施設合同ではできませんでしたが、甲寿園とにしのみや苑は夜間の火災を想定した防災訓練を下半期に実施しました。
- (ウ) 事業継続計画に更に検討を加えて、災害対策の基礎とします。  
⇒防災部会で、実際に起こった災害の経験に則して足りない部分を補足して充実を図りました。
- (エ) 日本福祉大学提携社会福祉法人の災害対策担当者研修に参加するとともに災害時ネットワークの対応を周知します。  
⇒11月に開催される研修に5名が参加しました。防災部会で非常時の参集システムについて検討をして次年度には確立します。

## 8) 中・長期計画、地域貢献活動

- (ア) 中・長期計画については、5カ年を経過するので新しい5カ年計画の策定を進めます。  
⇒法人運営、子育て支援、高齢者支援、障がい児・者支援、地域支援・地域貢献の5つの部門に分けて部会を組織して、計画を策定しました。外部委員を招いての検討会を2回行い、2月28日の臨時理事会で承認されました。
- (イ) 喀痰吸引研修事業を年2回開催します。  
⇒1回目は10名、2回目は15名が受講しました。
- (ウ) 法人成年後見事業を運営している「特定非営利活動法人みどり兵庫」の運営を支援し、成年後見人養成講座の開設を支援していきます。  
⇒法人内から6名の職員が運営委員として携わり、支援しています。  
成年後見人の養成講座は、今後の検討課題となりました。
- (エ) 社会福祉充実計画は社会福祉充実残高がマイナスのため、計画を策定し所轄庁の承認の必要はありませんが、県や市の社会福祉協議会や、NPO法人、民生委員その他の地域の諸団体との交流を通じて、可能な限り地域貢献事業を行っていきます。  
⇒総合相談支援センターや地域包括支援センターを中心にして、各団体と交流を図りました。また、地域貢献活動支援部会に於いて、コープこうべの会議室を借りて相談会を2回開催し、合計で53名の参加がありました。

## 9) 専門部会

- (ア) 事務担当部会では「社会福祉事業における事務機能の基盤強化」を方針として活動します。会計監査法人による調査にもとづき、改善するべきは改善し、簡略化可能なところは簡略化することに取り組みます。  
⇒会計監査法人からの注意事項や、予算作成や決算作成のための留意点を確認しました。

(イ) 栄養・給食担当部会では、「安心安全で美味しい食事を提供し、適切な栄養管理を行う。専門分野の資質向上に努める。地域へ情報を提供し要望や期待に応える」を方針とし各施設の情報交換や交換研修に取り組みます。

⇒4回の部会を開催しました。各施設交代で研究発表を行い、各施設の取り組みを知ると共に意見交換を行いました。情報交換や報告等もその都度行い、各施設の栄養・給食の向上に努めることができました。

- ①摂食嚥下の取り組み（西宮すなご医療福祉センター）②和食「だし」の取り組み、誤食防止の取り組み（安井保育園・夙川さくら保育園）③料理レクリエーションの取り組み（にしのみや苑・北山学園）④クッキングを通しての関わり（甲寿園）をテーマとしました。

(ウ) 研修担当部会では、組織力向上による人材育成を目標とした法人研修を企画します。新任職員研修、新任フォローアップ研修、法人職員合同研修、役職者研修、法人職員合同実践研究発表会、職員施設間交換研修を実施します。また、各施設の専門性を考慮したキャリアパスを念頭に、施設間の情報提供や研修支援を検討します。

⇒研修担当部会では、人材育成のための法人研修を企画し運営しました。

- ①新人研修：平成30年3月27日（水）～29日（金）

社会福祉法人で働くにあたって、法人の沿革と組織、高齢者の福祉と介護、保育、重症心身障害児者の医療と福祉、就業規則・給与規則、職務倫理をテーマに講演を行い、各施設見学を実施しました。

- ②新任フォローアップ研修：平成30年10月23日（火）

内容は、新任6か月間を振り返り、職場での不安や悩み、相談についてアドバイスを受け、レクリエーションやミーティングで親睦を深めました。

- ③法人職員合同研修：平成30年7月26日（木）、9月28日（金）、10月25日（木）

日本福祉大学助教の水野節子氏を講師に迎え、「チームによる合意形成」をテーマとするグループワークを3回実施しました。

- ④法人職員合同実践研究発表会：平成30年11月18日（日）

各施設より、9題の実践研究発表を行いました。また、フォトジャーナリスト國森康弘氏に、地域での看取りケアの数々の写真映像を題材として特別講演をしてもらいました。

- ⑤法人役職者研修：平成31年1月30日（水）、2月15日（金）、3月5日（火）

服部理事長による役職者研修は、部下への相談援助をテーマにワールドカフェ方式で3回実施しました。部下一人ひとりに寄り添うことで部下と組織双方の成長を目指しました。

- ⑥職員施設間交換研修（法人施設研修）は、各施設より14名、延べ28日間実施し、自施設では経験できない学びを受けることができました。

その他、施設内研修に関する広報や情報交換も実施できました。

(エ) 広報活動部会では、「人材確保に向けての広報活動」を中心に引き続き進めていきます。法人の理念をデザイン化したファイルケースを作成します。各拠点のリーフレットも同時に作成し、法人としての統一感を持ちつつ各拠点における個性も尊重できる広報活動を進めていきます。

⇒広報活動部会では、法人の理念をデザインしたファイルケース及びリクルートに特化したパンフレットを作成しました。当初の予定通り法人としての統一感を持ったファイルケース・パンフレットが出来上がりました。すでに就職説明会等で活用しています。

各拠点で使用する場合は、その施設に特化した資料をファイルケースに入れることによって、リクルート以外の使用も今後考えていきます。

(オ) 危機管理・防災対策部会では 法人全体の「BCP（事業継続計画）の周知」及び各施設における「職員の即時活動マニュアル」の徹底を図ります。

⇒第1回部会ではBCPを成案として経営協議会に提出することとしました。

第2回・第3回部会では理事長からの特命を受けて、6月の大阪北部地震及び7月の西日本豪雨災害の各施設での対応と改善点を集約し、検討を加えて常勤役員会及び経営協議会に提案しました。

また、職員参集体制の見直しにも着手しました。

第4回部会では、安否確認・招集システムのメーカーによるデモンストレーションを受けました。

第5回部会では、安否確認・招集システムの配信基準、緊急参集区分及び防災規程の見直し等を検討し、今後、継続して審議することになりました。

(カ) ボランティア支援部会では、ボランティアだよりを年2回発行し、ボランティアの活動を伝えます。各施設のボランティア同士が繋がりを持てるよう集いを企画します。実習生にボランティアの意義、やりがい等を伝えボランティア活動に参加を促します。

⇒ボランティアだよりを9月と2月に発行しました。ボランティア募集のパンフレットを作成中です。

西宮市内の大学へのボランティアへの参加の案内は次年度にすすめます。

(キ) 地域貢献支援部会では、法人の専門職員を活用し社会福祉制度や並びにケア内容等について、西宮市の地域の地理的状況を勘案しつつ地域別相談会を実施します。

また、「特定非営利活動法人みどり兵庫」と協力して、成年後見人養成講座の開設を目指します。

⇒上半期の支援部会では、西宮市内で「連続公開講座及び福祉何でも相談会」を計画しました。

開催は、下半期の平成30年12月と平成31年2月に「コープ苦楽園」にて実施しました。

①「中高年の生活習慣にかかわる病気～平均寿命と健康寿命をのばすために～」

大森内科医院 大森公之助先生

平成30（2018）年12月16日（日）13：00～コープ苦楽園集会所

参加者数23名（スタッフ6名） 何でも相談会1人

②「その咳放っておいても大丈夫？～長引く咳には要注意～」

さいとう内科・呼吸器クリニック 齋藤宜之先生

平成31（2019）年2月17日（日）13：00～コープ苦楽園集会所

参加者数30名（スタッフ4名）

成年後見人養成講座の開設については現在協議中です。

## 10) その他

(ア) 労働環境の改善をすすめ、職員の健康管理の課題に引き続き取り組みます。

ストレスチェックを実施します。

⇒ストレスチェックは11月に実施しました。

(イ) 永年勤続表彰（10年、20年、30年、40年）を行います。

⇒11月18日の法人合同実践研究発表会の日に表彰を行い、10年25名、20年9名、30年4名、40年4名が表彰を受けました。

(ウ) 各施設の事業報告集を7月に発行します。

⇒7月に発行しました。